

第5回沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会 議事要旨

1. 日時：平成19年7月25日(水) 14:00～16:45
2. 場所：虎ノ門三井ビル 原子力安全委員会会議室
3. 出席委員：平澤分科会長、遠藤分科会長代理、長岡委員
4. 議事概要

(1) 第4回分科会議事録・議事要旨の確認

資料1及び資料2の第4回分科会議事録・議事要旨の確認がなされ、原案どおり了承された。

(2) 平成18年度業務実績について

機構から平成18年度業務実績の説明があり、その後、意見交換がなされ、委員から下記の質問・意見が出た。

評価基準について、計画どおりに進んだからAというのは国民の目から見れば甘いのではないか。

実績については、計画時にどういう内容であったのかということと比較しながら委員に理解してもらうよう記載する必要がある。

重要な項目については、中期計画に対して年度ごとにどのような進め方をしている、昨年度はどうだったかという参考資料がほしい。

研究ユニットの研究評価の実施のための準備状況については、国民の目線でわかるような形での説明が必要。

研究成果の普及について、公表・発表しただけで終わるのではなく、成果が何らかの形で活用されていくことが重要。今後、どのように把握していくか今のうちから検討していく必要があるのではないか。

運営委員会の議論のなかで、運営委員会を補佐する組織である科学顧問グループの設置を見送ったのであれば、その経過について説明してほしい。

ラスパイレス指数について、数値が高くなる必然性はあると思う。単に若手を採用したということに留まらず、十分にわかるような実績の書き

方が必要。

随意契約については、契約金額の割合は増えている。実質的に一般競争入札が拡大したことが分かるように説明してほしい。

(3) 平成18事業年度財務諸表について

機構から平成18事業年度財務諸表の説明があり、その後、意見交換がなされ、委員から下記の質問が出た。

人件費について、計画と実績を比較すると実績の方が少なかったということで利益が出ているが、要因としては定員に満たなかったということか。

(4) 総務省評価委員会からの意見に対する対応(案)について

事務局から資料8に基づき説明があり、当分科会の共通認識として了承された。

(5) 評価委員会からの意見に対する対応状況について

機構から資料9に基づき説明・報告がなされた。

(6) 独立行政法人の整理合理化案の策定について

事務局より、沖縄機構についても、中期目標終了時の見直しを1年前倒しで行うことと兼ねて整理合理化案策定作業を行うこと等に関する今後の作成スケジュールについて、説明がなされた。

(7) その他

機構関係者退席後、意見交換が行われ、委員から下記の意見が出た。

第2期に研究分野を拡大していくとき、理事長の専門でない分野で世界トップクラスのものを作っていくためには、システムの検討が必要ではないか。

世界トップクラスの大学院大学は性急には作れない。多くの知見を集めながら、時間をかけて作り損ねのない第一級のものをつくるということに取り組むべきである。

日本人の良い学生だけを集めるというのではなく、世界から集めなければならない。そのための仕組みづくりというのを堅実なやり方をお願いしたい。一気に開設するのではなく、教育メカニズムを小規模で始めることや他大学との連携など、さまざまな工夫があり得る。